

オゾンナノバブル水の ミュータンス菌に対する検証試験

試験機関：一般財団法人 日本食品分析センター

【試験概要】

検体に試験菌液を接種後（以下「試験液」という。）、所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また、あらかじめ予備試験（中和条件の確認）を行い、検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

【試験結果】

結果を表-1、試験条件を表-2 に示した。また、培養後の生菌数測定平板を写真-1~3 に示した。

なお、試験液を SCDLP 培地で 10 倍に希釈することにより、検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対象	生菌数(/ml)		
		開始時	1分後	5分後
ミュータンス菌	検体	-	<10	<10
	対照	4.0×10^5	-	4.4×10^5

<10：検出せず

表-2 試験条件

試験菌	Streptococcus mutans IFO 13995（ミュータンス菌）	
試験菌液	試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35℃±1℃、18~24時間培養した後、精製水に浮遊させ、菌数が $10^7 \sim 10^8$ /mlとなるように調製した。	
試験液	検体10mlに試験菌液0.1mlを接種	
保存条件	1分、5分（室温）	
対照	精製水	
中和条件	SCDLP培地[日本製薬株式会社]で10倍希釈	
生菌数測定	SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]、混釈平板培養法	35℃±1℃、 2日間培養

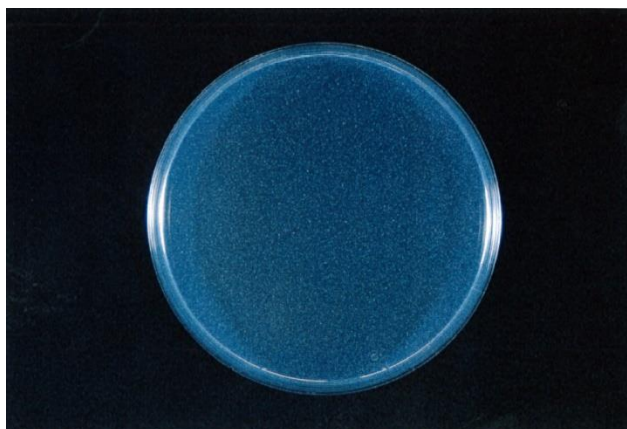


写真1 ミュータンス菌 開始時

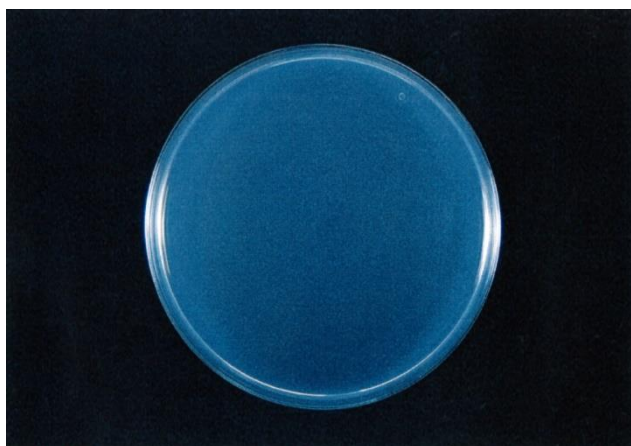


写真2 ミュータンス菌 1分後

以上

※本資料の無断転載・引用を禁じます。